

第118号

発行日

2023年12月6日

発行責任者

鳴原 久

編集・印刷

齋藤 馨



魔の交差点で事故発生



去る十一月二十三日の午後三時頃、左の写真の交差点で自転車と車の衝突事故が発生しました。自転車に乗っていたのは中学三年生で、幸い軽い怪我で済みほっとしました。

この交差点は「魔の交差点」といっても過言ではないほど、過去に数多くの事故が起きています。殆どが今回と同じような自転車と車の衝突です。

この交差点を渡る場合は、手前で徐行し、必ずカーブミラー見て、左右の安全を確認してから渡るようにしてください。

車の方も徐行しカーブミラーで左右の安全を確認して通行してください。

愛宕神社夏季祭礼 賑やかに挙行



【桜鼓会の子どもさんが日頃の練習ぶりを披露】



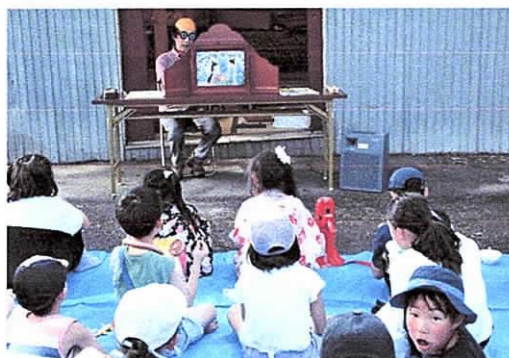
【春日神社佐藤宮司から講話を賜る】

八月五日、六日、大旦愛宕神社の夏季祭礼を執り行いました。初日の六日は子ども山車の安全祈願を行った後、町内を巡行しました。四年振りの開催とあって大いに盛り上がりました。

二日目の本祭りでは「桜鼓会」の奉納太鼓が始まり、集会所前の広場には沢山のゲーム等が用意され、多くの家族連れが楽しみました。何と言っても一番の人気は「スイカ割り」で、希望者は長蛇の列。大勢の応援団？が取り囲め、「左だ！右



【子ども達が元気に山車を引いて町内を巡行します】



【見守る会齋藤馨さんの紙芝居を楽しむ】

だ！前だ！」と必死になって声援を送っていました。

ゲーム等のメニューは「射的」「スパーボールすくい」「輪投げ」「くじ引き」「紙芝居」「ポップコーン」「かき氷」と沢山あり、しばらく振りに歓声が響きました（裏に続く）



【エーイ！大勢の声援を受けて振り下ろす】



育成部では如何にすれば大人も子供も楽しんでもらえるか、早くから準備に時間を費やしてきました。また、「桜鼓会」の皆さんには祭りの雰囲気大いに盛り上げていただき、これまでのご苦勞に御礼申し上げます。

また、町内の多くの事業所さんからも多大なご協力をいただき、感謝申し上げます。

また、焼きそば、焼き鳥、チョコバナナ等の出店も町内の事業所さんにご協力いただき、祭り気分満点でした。



【ヤッター！見事に命中したお二人】



【皆さんがんばりましたねー！】

夕方五時から祭りの最後のイベントである「盆踊り大会」が行われ、若者男女が汗を流しながら暑い夏の夜を楽しみました。全日程終了後、集会所に関係者が一堂に会し、成功を喜び合いました。



【立派な櫓を設置して頂きました】

創代工業さんに感謝！
町会会員である有限会社創代工業さんには、いつも会場のやぐらを設置して頂いており、お陰で成功裏に終了することが出来ました。心から感謝申し上げます。



【櫓に提灯を飾り付ける実行委員の皆さん】

成功の陰に苦勞あり
どんなイベントも目に見えない準備の苦勞があり、そのことが成功に結び付きます。いつもご苦勞様です。



【大壇堤防碑を説明する齋藤浩二副会長】



【大壇 400 年の歴史を説明する嶋原会長】

岡山小学校六年生
大旦の歴史を学ぶ
九月十九日、岡山小学校の約六十名が、嶋原会長から大旦四百年の歴史について説明を受けた後、愛宕神社、歴史館、大壇堤防碑を見学し、見聞を広めました。
小学生が自分が住んでいる地区の成り立ちについて学ぶことは、大変意義あることであり、大旦に足を運んでくれたことに感謝しています。

「方言」



津軽弁



若い頃に仕事で東京へ出張した時のことだ。会場の九段会館が見つからず、付近の交番で道を尋ねた。自分では改まってちゃんと標準語で話しているつもりだが、尋ねた後お巡りさんが急に親しそうな顔になって「東北の方ですか」と言われた。いくら標準語のつもりで話しても、やはり「訛り」は隠せないんだ。私がちょっと恥ずかしそうにしていると、そのお巡りさん曰く。「実は私は秋田出身なんです」と。途端に恥ずかしさがどこかへ吹き飛び、先程までの気遣いは一切必要なくなり、会話が弾んだ。

私の妻の実家は青森で、結婚前に初めて父親と会った時に話された津軽弁は殆ど理解できず、外国語でも聞くようだった。分からないのに分かったふりをしなければならなかったことが大変だった。その後何度も話しているうちに、次第に理解できるようになったが、何年もかかった。

妻との初対面で話したことは、方言のことだった。私は「津軽弁は抑揚が激しいですね」と言ったのに対して、彼女は逆に「福島弁は抑揚がなくて一本調子ですね」と言われてしまった。

妻の妹が九州人と結婚した時、津軽の人は九州弁を理解できるが、九州の人は津軽弁が理解できず、私が通訳？を務めたことがあった。

【齋藤 馨】